

# 防災教育をどう広げるか

防災学習アドバイザー・コラボレーター  
神戸学院大学現代社会学部 非常勤講師  
兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

諏訪清二





葉

- こどもが学び取る知識・技能
- \* 総体として大きな力を発揮
- \* 木の命が続く限り  
絶え間なく更新されていく

思考力・判断力・表現力

- \* 知識・技能を自らの生活の中や  
生き方の関連で使いこなしていく  
中で育んでいく
- \* 着実に太くなっていく

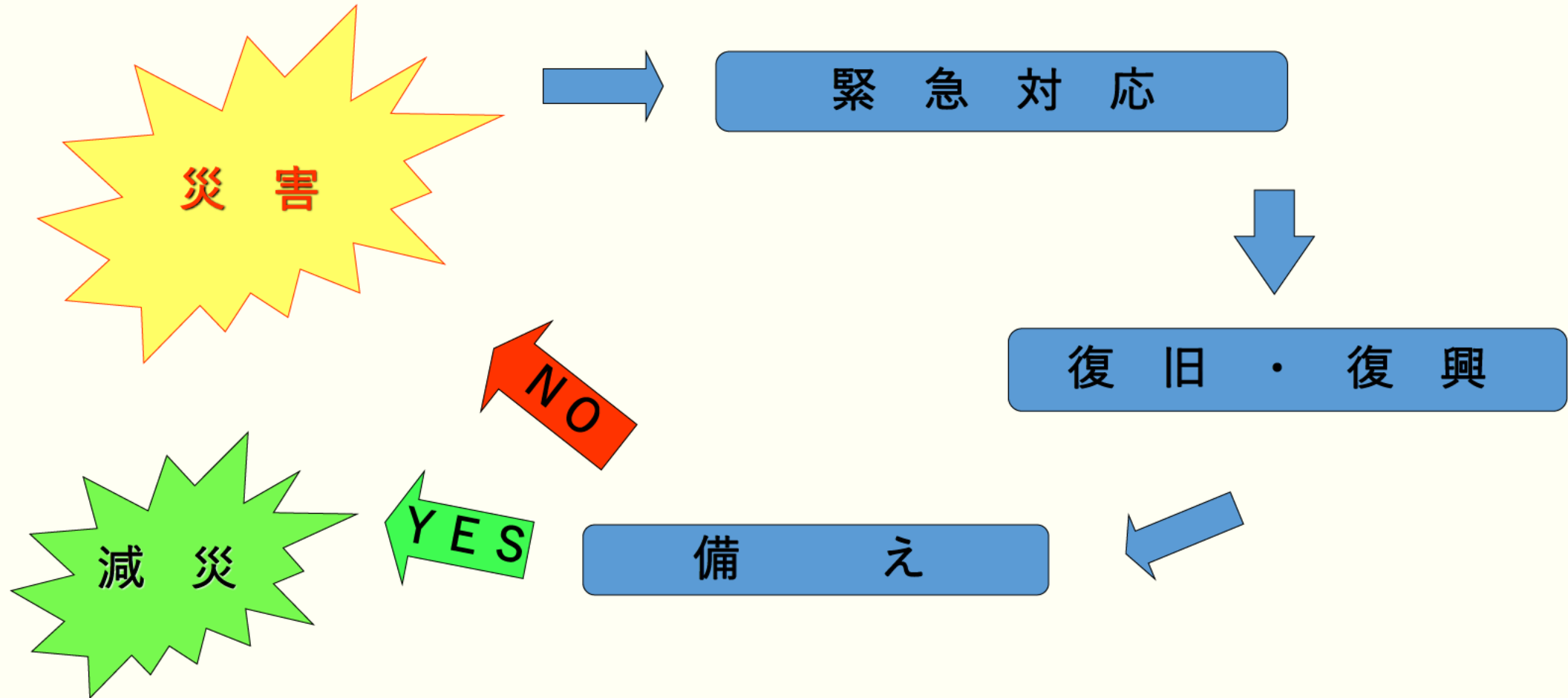
幹

意欲・関心・態度

根

- 地面に食い込み自らを支える
- \* アイデンティティ

体験を通して根っこを広げる



# 学力の樹と災害のライフサイクルから考える

# 学びのチャート

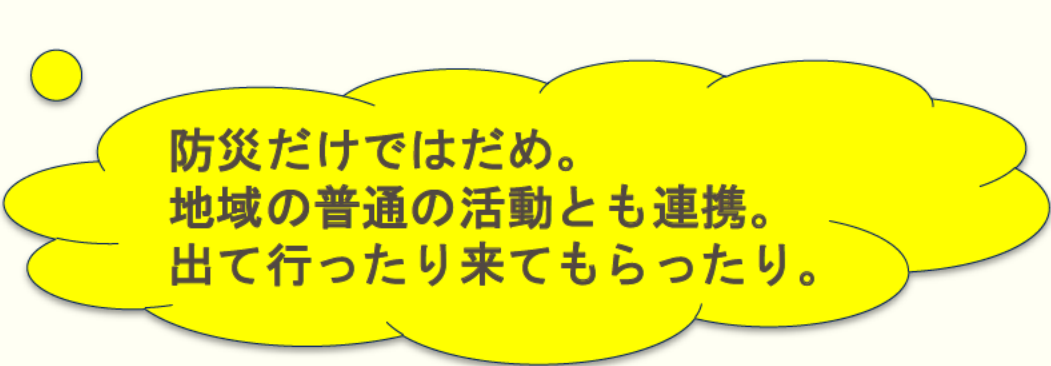
	備え	災害発生	緊急対応	復旧・復興	新たな備え
葉 知識 技能	自然現象（ハザード）のメカニズムを知っている。  災害別の備えの方法を知っている。	危険回避行動や避難行動につながる正しい知識を持っている。	救出・救助の方法 けがの手当てや心肺蘇生法・AED、けが人の搬送、初期消火などの知識と技能を持っている。	避難所運営、ボランティアなどの知識と支援に役立つ技能を持っている。	過去の災害で得られた教訓を理解している。  より良い備えの方法を知っている。
幹 思考 判断 表現	知識をもとに、自分に降りかかる恐れのある災害を想定し、正しい備えを行っている。	自分を取り巻く情報を収集し、臨機応変に判断して身を守ることができる。	自分を取り巻く情報を収集し、臨機応変に判断して周囲の人を救出・救助・することができる。	情報を収集し、臨機応変に判断して周囲の人を支援することができる。	過去の災害で得られた教訓を学び、日頃の学習や生活体験を通して臨機応変の判断力を高めている。
根 意欲 関心 態度	災害と災害に対する備えを学び、実践する意欲を持っている。 自然の脅威と恩恵に関心がある。	災害から身を守るために最善を尽くそうという意思を持っている。	自分が持っている知識を使って周囲の人を助けようとする気持ちを持っている。	被災して困っている人を支援しようとする気持ちを持っている。	過去の災害で得られた教訓を学び、災害に強い社会の構築につなげようとする意志を持っている。

## 【防災活動が中心】

- 小中学生の「地域安全マップ」作りに地域住民が参加
- 工業高校生徒が地域の簡易耐震診断
- 中高生が地域住民の避難カルテを作成
- 中高生が高齢者宅の家具を固定
- 中高生が高齢者宅の家具を固定

## 【祭り、文化、スポーツなどの活動が中心】

- 中学生が地域の田植え祭りに参加
- ☆ こどもたちの「地域貢献」と「自己肯定感」
- ☆ 地域との顔合わせ、人合わせ



防災だけではだめ。  
地域の普通の活動とも連携。  
出て行ったり来てもらったり。

- 寝室の危険個所探しと改善案・・・家庭に持ち帰って相談
  - 避難経路・避難場所・・・家族会議
  - 非常持ち出し袋・・・我が家の持ち出し袋を決定
  - 授業参観で防災の学習
- ☆ 宿題・授業参観で家族の意識を防災に向ける



子どもを通して  
親の関心を高める。

## 学校の災害発生時の対応力

## マニュアルだけでは不十分

---

---

- 「学校防災マニュアル」の作成だけでは不十分
  - ☆ 災害はマニュアル通りには起こらない。
  - ☆ 災害時にマニュアルを読んでいる先生って、こどもの目から見ると？
  - ☆ マニュアルは一生懸命作る。使わない、使えない。
  - ☆ 特に必要な部分、大切な部分はラミネートしてあちこちにつるしておく。
  - ☆ 作る過程で身につけたノウハウを臨機応変に使う。
- 時系列に沿ったワークショップで災害発生時をリアルに想像
- 「できないことがある」「わからないことがある」ことがわかることが大切





# 中高生が災害時に地域で支援者となりうる視点での防災教育

## 被災地

自分の命を守る

### Survivorとなる防災学習

ハザードを知る 耐震 家具の固定  
水・食料の確保 適切な避難  
危機回避のための判断力 など

助かった直後に周りの人を助ける

助かったときに被災者を支援する

### Supporterとなる防災学習

救出・救助 搬送 けがの手当て  
心肺蘇生 AED  
炊き出し 避難所運営 家の片付け  
話し相手 遊び相手 心のケア  
救援物資 募金 激励  
防災学習 など

## 未災地

被災地に駆けつけて支援する

遠くの被災者を支援する

### 市民力を育む防災学習

日常的に社会に参画する

人を助けようという気持ち  
社会に貢献する心 臨機応変の判断力  
福祉・環境など日常のボランティア活動  
社会・組織への参画 など

# 中高生が災害時に地域で支援者となりうる視点での防災教育

---

---

## 【備えでの支援者】

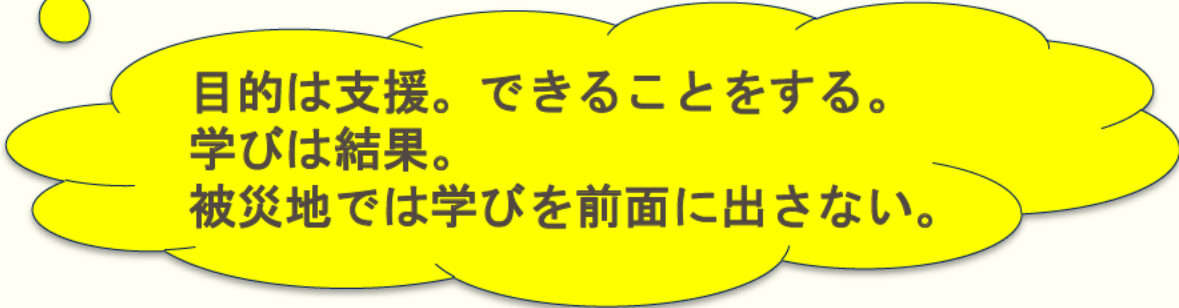
- 高齢者の支援（安否札、耐震診断、家具の固定、避難カルテ・・・）
- 地域全体の支援（地域防災訓練への参加、地域と一体となった防災学習）

## 【災害発生時の支援・・・被災地で】

- 被災地での災害ボランティア

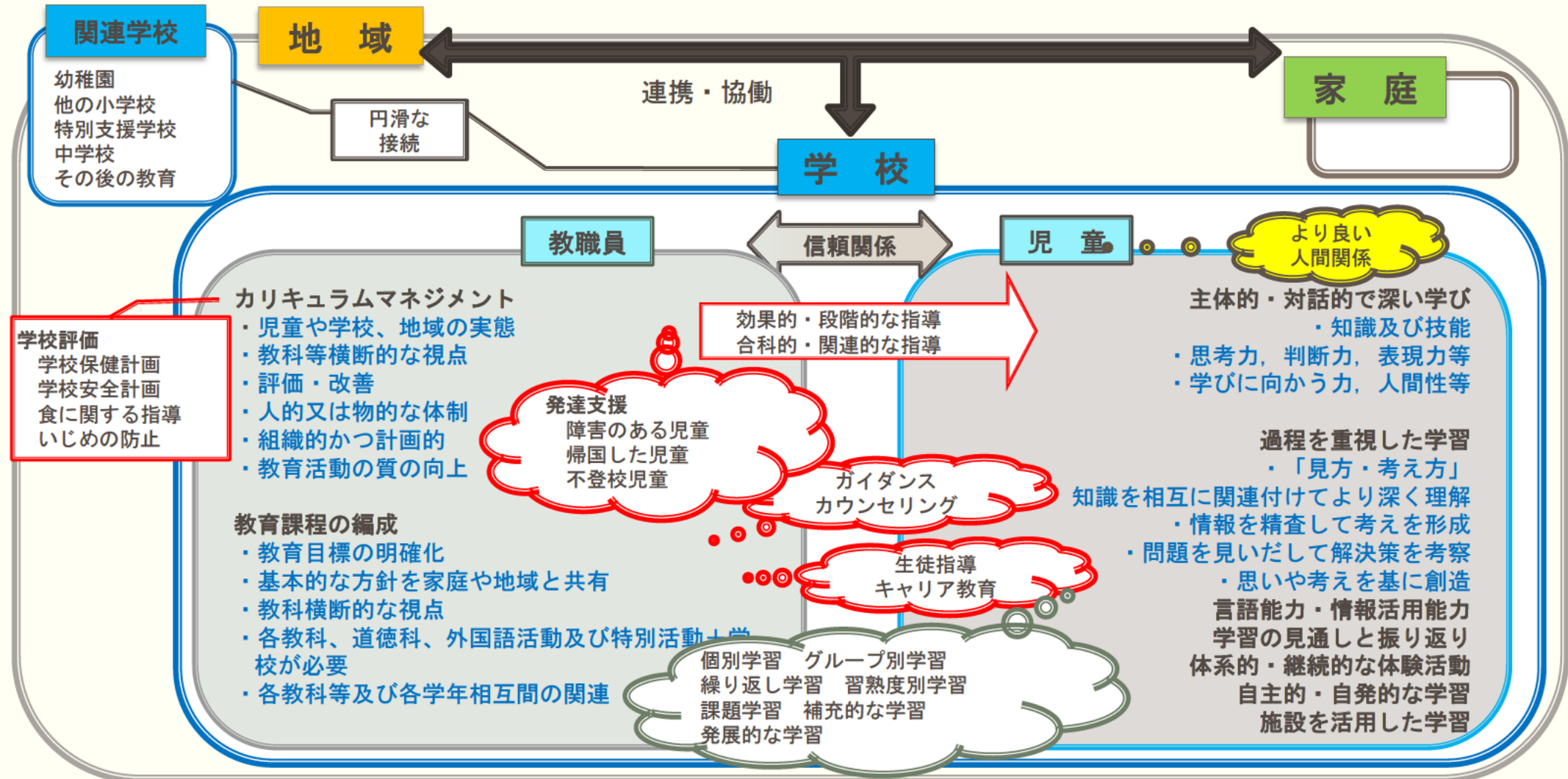
## 【災害発生時の支援・・・未災地から】

- 募金
- メッセージ（しっかり考える必要があるが）
- 支援物資（役に立つか、邪魔になるか）



目的は支援。できることをする。  
学びは結果。  
被災地では学びを前面に出さない。

# 学習指導要領と防災学習



1. 「災害」「安全」「防災」が明記されている  
⇒ 教科書に載る。必ず授業で取り上げる。  
ただし、学年、分野が限られている。
  2. 「災害」「安全」「防災」は明記されていないが関連がありそう  
⇒ 教職員の工夫で面白い実践が可能。
  3. 一見関連なさそうだが、アイデア次第で防災の学習が可能  
⇒ 教職員の工夫で面白い実践が可能。
- ☆ 1 だけでは不十分。
- ☆ 2、3 と「特別活動」「総合的な学習の時間」を活用して防災学習を実施。

## 社会

3年 「地域の安全」

4年 「自然災害・今後想定される自然災害・地域の自然災害」

5年 「自然災害・対策や事業・国土の保全・防災対策」

「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害」

6年 「自然災害からの復旧・復興」

## 理科

5年 「流れる水の働きと土地の変化」 「天気の変化」

\* 「自然災害についても触れること」

6年 「土地の作りと変化」

\* 「土地は、火山の噴火や地震によって変化すること」

\* 「自然災害についても触れること」

## 生活科

- 1年2年 「通学路の様子やその安全・安全な登下校」  
「安全に生活・安全に気を付けて」

## 家庭

- 5年6年 「健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活」

## 体育（保健）

- 5年6年 「けがの防止・交通事故・身の回りの生活の危険」  
「危険の予測や回避の方法」

## 特別の教科 道徳

- 全学年 「安全」

## 特別活動 学級活動

全学年 「健康安全」

「健康で安全な生活態度」

「事件や事故、災害等から身を守り安全に行動」

## 特別活動 学校行事

全学年 「健康安全」

「事件や事故、災害等から身を守る安全な行動」



◇ これらはすべて教科書に載る

そのまま使うか、工夫して使うか

「合科的」に取り扱う

(例) 理科と社会の進度を合わせる

(例) 「防災学習週間」を設置し、各教科で防災を取り上げる


## 社会 3年

- 行政が発行する地域のハザードマップの読図
- 自分たちで地域を歩いて安全マップづくり
- 消防署を訪問して仕事の内容を聞き取り、壁新聞で発表
- 市の交通網を地図で確認し、災害時にどうなるかを予測
- 市で過去に発生した災害についての聞き取り調査と年表、地図の作成
- 過去の災害を通して変化してきた事柄を調べて壁新聞で発表

- 
- 身近な地域や市町村を学ぶ
  - 聞き取り調査 地図 etc.

### 社会 4年

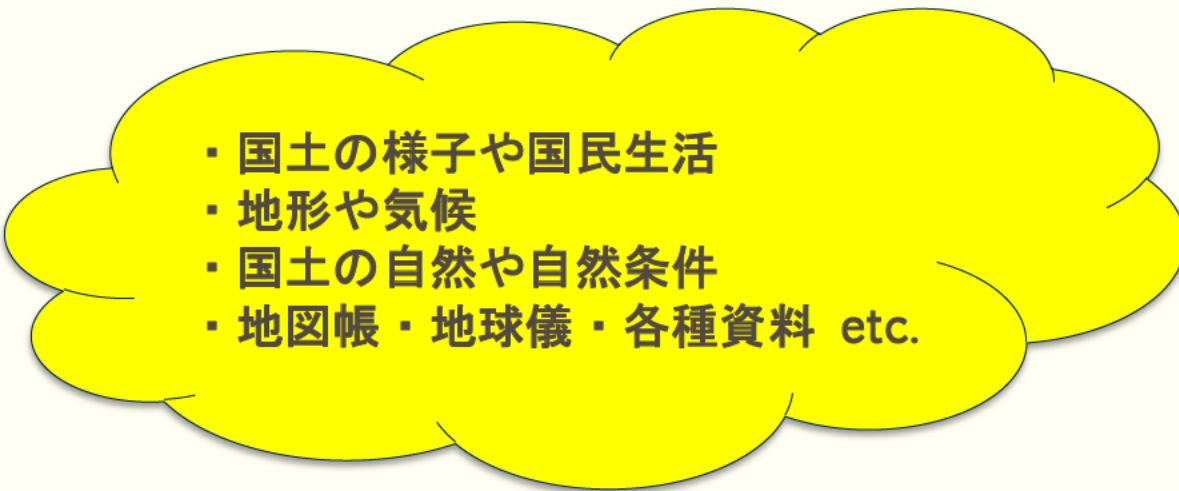
- 全国で過去に起こった大きな災害を調べ、災害地図を作製
- 各地の代表的な産業と災害の関係を調査
- 地形図を用いて県内の地理的特徴を学び、災害との関連を理解
- 電気、ガス、水道などのライフラインと災害時の被害、対応を調査し、壁新聞やパソコンで発表
- 地域で過去に起こった災害での先人の活動事例を学習
- 県内でも特に大きな災害があった地域の歴史、自然環境、災害の実態、対応、地域づくりなどを調査、学習、発表
- 地域に残る災害に関連する伝説、実話、行事、先人の貢献などを調査



・ 都道府県を学ぶ  
・ ライフライン  
・ 先人 文化 地図  
etc.

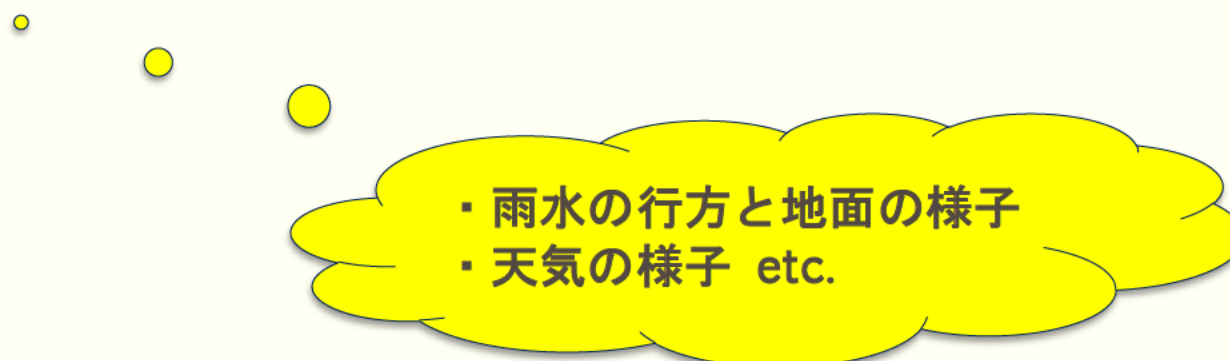
## 社会 5年

- 海、山などの自然環境に着目して、各地の気候の違いと特徴、それにかかわる災害と人々の対応、適応を学習
- さまざまな地域の自然環境とその恩恵と脅威、人々が自然と付き合ってきた「作法」を学習

- 
- 国土の様子や国民生活
  - 地形や気候
  - 国土の自然や自然条件
  - 地図帳・地球儀・各種資料 etc.

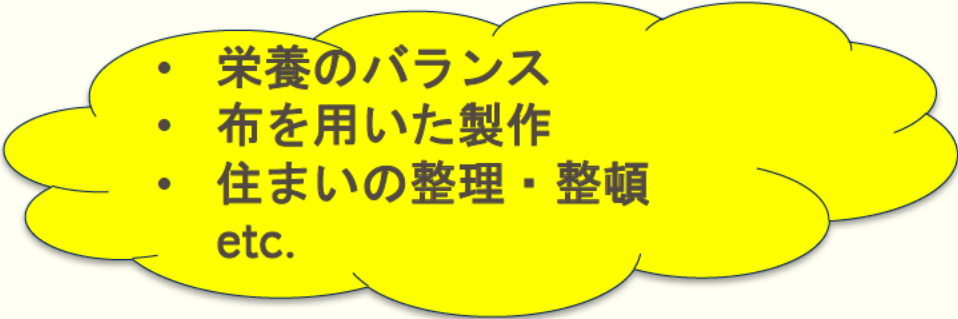
## 理科 4年

- 土の粒を変えた斜面を作り水を流して削れていく様子を観察
- 水が原因となる災害の種類と実例を調べ、まとめ、発表
- 水を原因とする災害を引き起こす天気、特に台風や梅雨、大雨の降るメカニズムとその実際の災害の様子学習

- 
- 雨水の行方と地面の様子
  - 天気の様子 etc.

### 家庭 5年6年

- 災害時の食事について体験者の話を聞き取り調査
- 避難所での食事の調査と年齢や体調、アレルギーに応じた食事の考案
- 非常食、炊き出しの調理実習
- 非常持ち出し袋の製作
- 多機能防災頭巾の製作（例えば、座るときは座布団、逃げるときは防災頭巾、中には毛布が入っていて、防寒になる。）
- 自分の部屋の危険個所探し
- 家具の固定法の学習
- 簡易耐震診断

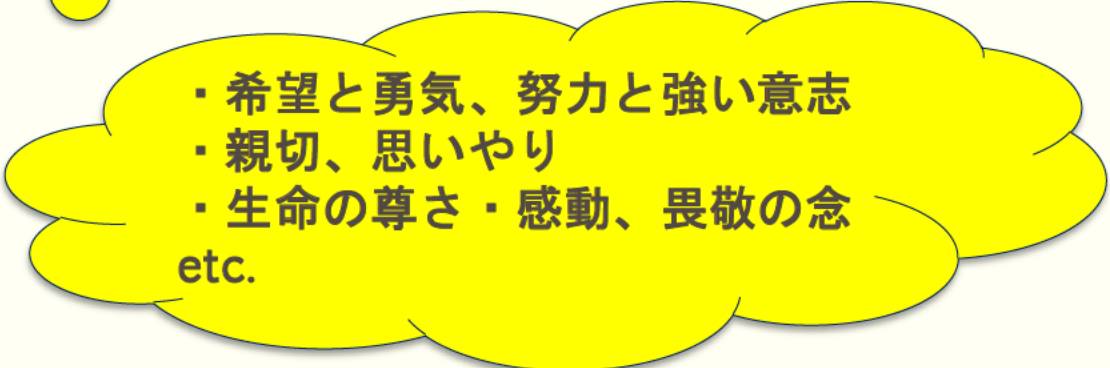
- 
- 栄養のバランス
  - 布を用いた製作
  - 住まいの整理・整頓
  - etc.

## 特別の教科 道徳

- 道徳には、災害時の人々の活動や心の動きに関連のある学習項目が多い。

災害時の実体験を題材にしてこれらの項目を学ぶとよい。

特に同世代の体験は子供たちの心に入っていくやすい。

- 
- ・ 希望と勇気、努力と強い意志
  - ・ 親切、思いやり
  - ・ 生命の尊さ・感動、畏敬の念
- etc.

## 総合的な学習の時間

- 教科横断的、総合的な視点で行う総合的な学習の時間が、各教科で行っている防災学習をまとめる存在となる。
- 教科や特別活動と相互に関連付けられる。
- 課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、それらをまとめ、表現する探究的な学習の過程が大切。
- これらの視点を生かして、防災学習を総合的な学習の核にすることが可能となる。
- 各学校ですすでに取り組んできた、人権、環境、地域、福祉、健康、国際理解、情報、などの課題に、防災の視点を取りいれて、「防災 + a」「a + 防災」の視点で取り組む。

・ 日常生活とのかかわりを重視  
・ 探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力etc.



## 国語

- ・ 読書の題材に災害について書かれたものを用いる。特に、同世代の子どもたちが書いた被災体験は、その様子を想像しやすく、感性も近いことから、子どもたちに受け入れられやすい。読後は、内容について話し合ったり、感想文を書いたりする。
- ・ 災害の写真を見て、それを川柳にして表現する。
- ・ 地域に昔起こった災害（現在進行形の災害）の聞き取り調査をし、その内容を絵本や紙芝居にする。
- ・ 災害に関する地域の言い伝えを探して、調べ、発表する。

## 社会

- ・ 歴史学習では、歴史上の偉人が取り組んだ災害対策を学ぶ。特に地域素材を発掘して学ばせると、こどもたちの関心を引く。  
  
（例）信玄堤 各地にある河川に付け替え など
- ・ 遷都と山の荒廃、土石流などの自然災害の関係を合わせて学ぶ。
- ・ 断層や等高線が入った地図を使って地域の地震、水害、津波について学び、適切な避難を考える。
- ・ 地域の地図を作成するときに、自然や農業、林業、漁業、地場産業など、多様なレイヤを重ね、面白い地図にする。
- ・ 交通、工業、都市などを学ぶときに、そこに災害が発生したらどうなるかを話し合う。過去の災害から学ぶ。

## 算数

- ・ 計算問題の題材を災害からとる。

（例）非常持ち出し袋に入れるアイテムの個数を数える。

津波の速度計算をする。

- ・ 非常持ち出し袋に入れるアイテムを考える授業と算数を組み合わせる。

（例）アイテムと値段が書いたカードを使い、一定金額で必要なものを買う。

アイテムと重さが書いたカードを使い、こども用の非常持ち出し袋、大人用の非常持ち出し袋を考える。

- ・ 災害時の被害の様子を表やグラフにする。

## 理科

- ・ てこの学習で、下敷きになった人を救助すると仮定して、本棚の下に人形を置き、それを助ける。合わせて、より便利はジャッキも使ってみる。
- ・ 電気の学習で、災害による停電の不便さを考え、話し合う。また、小さなソーラーパネルを作って、ラジオや携帯電話を充電する。

## 音楽

- ・ 被災地で生まれた歌の背景を学び、合唱、合奏する。
- ・ 音楽が持つ癒し効果、励まし効果を考え、例えば、「癒しの歌ベストテン」「元気が出る歌ベストテン」などを話し合いで決め、鑑賞する。

## 図画工作

- 牛乳パックを使って耐震技術を考え、発表する。

牛乳パックを輪切りにして二つ重ねて二階建ての家を作る。揺らしてみるととてもよく揺れる。それを地震と仮定し、残った材料で揺れない工夫をする。発表させた後、筋交い、通し柱、火打ち、耐震壁などの実際の写真を見せる。

- 災害や安全を題材にしたポスターを作成する。特に、実際の災害時のストーリーを聞かせ、描かせると子どもたちの心に響く。

## 体育

- 避難所生活について調べ、例えば、エコノミー症候群を引き起こす避難生活の原因と危険性を理解し、体を動かすことの大切さを学ぶ。誰でもできる簡単な体操、ストレッチなどを習得する。
- グループで相談して音楽に合わせて行う簡単な体操を考案する。

## 外国語・外国語活動

- ・ 災害に関する基本的な言葉を英語で学ぶ。
- ・ 辞書を使って、避難所でよく使われる言葉を外国語で表す。
- ・ 災害時に必要なアイテムを英語で学ぶ。

## 特別活動

- ・ クラブ活動に「子ども防災クラブ」「防災ジュニアリーダー」などを取り入れる。
- ・ 運動会に防災と関係のある種目を取り入れる。
- ・ 文化発表会で災害を題材とした劇を演じる。〔伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度〕

## 結論

## トップダウンでの枠組み作りとボトムアップでの内容づくり

---

---

### 【トップダウン】

- 管理職研修、担当者研修、経年研修、初任者研修の活用  
⇒ 誰かがやる気にならないと
- 校内に防災学習を担当するセクションの設置  
⇒ 一人に任せると疲弊する。チームで取り組む枠組み作りが必要。
- 過去の実践事例の紹介  
⇒ 「防災未来賞ぼうさい甲子園」「防災教育チャレンジプラン」「各教育委員会の副読本」 etc.

### 【ボトムアップ】

- 学校での実践づくりと授業交流の場（教科部会のような・・・）
- 忌憚ない意見の交換